

4 地域の交流・活性化を目的とした農村環境保全活動

山間農業地域

【地区概要】

1

かてつ せとうちちよう
嘉鉄の畑と水と緑を守り隊（鹿児島県瀬戸内町）

- 奄美大島の瀬戸内町東部に位置する嘉鉄集落は、農業・畜産が盛んであり、特にパッションフルーツに関しては皇室献上品とされ「瀬戸内パッション」という独自のブランド化を図り全国へ出荷されている。
- 地域では、少子高齢化が進んでいるが、町が運営している「営農支援センター」において年間を通じて農業研修を行っており、1ターン者の受け入れにより嘉鉄集落においても活気づいている。
- 平成29年度に水土里サークル活動3期目を迎え、豊年祭や植栽活動等、青壮年団や子供会とともに地域ぐるみの活動することで交流を深めている。

- ・取組面積：20.0ha（畑）
- ・資源量：水路 11.8km, 農道 5.0km
- ・主な構成員：農業者, 青壮年団, 子供会
- ・交付金：約 62万円(R2)
農地維持支払 40万円
資源向上支払 22万円

活動開始前の状況や課題

- 農業者のみで伐採等を行っていたため、農業用施設等の十分な維持管理が出来ず、多大な労力を費やしていた。
- 高齢化により離農者が増え事から、身近に農業を経験できる環境を作り、担い手農家を確保し、遊休農地の発生を防ぐ事が課題であった。
- 農業者の販売促進を目的とし、かつ、地域住民の交流の場を設置する事で活性化に繋がらないか検討した。

取組内容

- 「景観形成」のための施設への植栽、草刈り等の管理を、農業者以外の構成員も含めて行うことで、農村環境保全に努めた。



- 離農者や県外へ移住した土地持ち非農家へ連絡を取り、遊休地の解消を行い農地の有効利用ができるようになった。



- 組織にて運営を行う直売所を設置し、生産及び意欲の向上を図った。

取組の効果

- 植栽活動を老人クラブやPTA・子供会と共同で行うことで世代間の交流を図ることができ、方言等の文化の継承にも寄与することが出来た。
- 遊休地の解消を行った事で「営農支援センター」にて研修を終えた新規就農者等へ貸出事ができ、担い手の確保及び農用地保全へと繋がった。
- 「ゆりどころ」設置後、地元農家約30名にて販売を行い、集落内外から買物客が訪れるようになった事で、生産意欲の向上に繋がったとともに、交流の場としても使用されるようになった。





きっかけ
 高齢農家の水路や道路農地係る管理作業が大変だった。

Step1 (~H19)
基盤整備の実施
 ○ 平成8年度に土地改良事業が完了して以降、農家の個人負担で農村環境を保全していたが、高齢化により離農者が増加した。

Step2 (H19~)
農家負担の緩和
 ○ 離農者による農地の遊休地対策が懸念された事から、組織による保全を行った。
 また、直売所の設置及び運営を行う事で営農意欲が高まった他、交流の場として活用されるようになり、農業が身近なものとなり活気づいた。

Step3 (H29~)
地域の現状
 ○ 地域の過疎化、農家の高齢化により、地域資源の保全管理を今後どのようにして行っていくのが喫緊の課題であった。



地域資源の適切な保全管理のための推進活動として、意見交換会の開催

将来に向けて

- 組織を中心とし、地域住民及び都市部の地域出身者等を含めた地域資源保全の体制づくりを推進する。
- 新規就農者や担い手農家を確保し、遊休地発生の防止を図りながら、農村集落としての景観を保全する。
- 次世代が農業に関心を持つ活動・環境作りを模索する。

今後の展望

Step5 (H30~)
意見交換会の開催
 ○ 地域住民、都市部の地域出身者及び学校関係者等に組織の活動を説明し、地域が抱える課題について意見交換を行っている。

Step4 (H30~)
保全管理の目標・内容
 ○ 今後の目標として、高齢農家の農用地の保全のため、地域住民及び都市部の地域出身者や土地持ち非農家等と連携を図り、地域資源保全の担い手の確保を図っていくことを設定した。